



グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。
その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです!

File No.1



平島竹琉さん (20歳)
立命館慶祥高校 (北海道・私立) 卒業

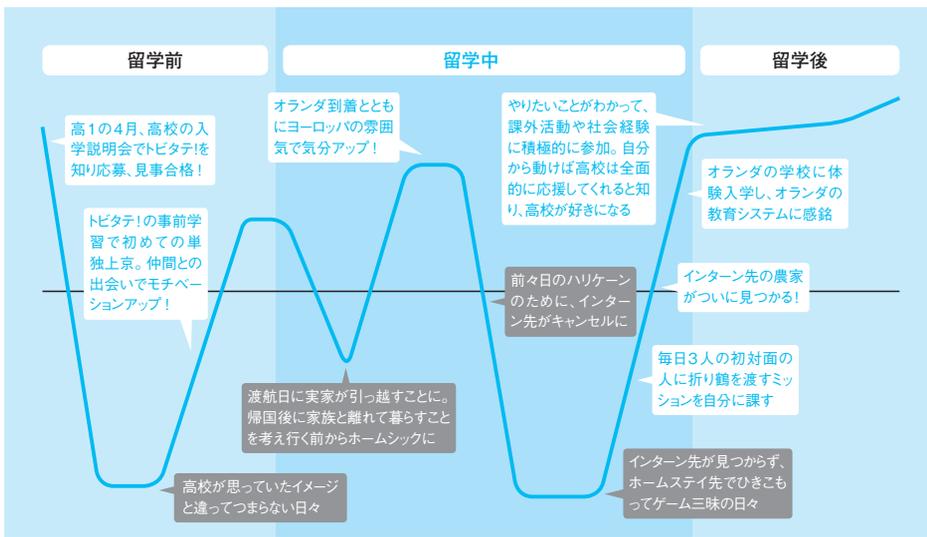
高校卒業後の1年間はギャップイヤー起業で、キャリア教育と農業を合わせたNPOを運営。自然体験を通じた起業家体験プログラムを実施していた。現在はカナダのコンコーディア国際大学に留学中で、今年の9月からはイギリスのエセックス大学に編入予定。

インターン先が見つからない 逆境を「折り鶴作戦」で打開!

北海道育ちで将来は農業を志望している僕の留学は少しイレギュラー。学校に入るのではなく、インターンで先進的な農業を経験するプログラムでした。ところが、渡航の前日にオランダに10年に1度というハリケーンが。被害処理でインターンの受け入れどころではなくなりました。

最初の1週間はひきこもってゲームばかりしていました。2週間しかない留学期間、これではいけないと奮起。インターン先を見つけるべく、まずは人とのつながりをつくらうと考えたのが「折り鶴作戦」でした。日本伝統の折り鶴を、1日3人の知らない人に渡して会話するミッションを自分に課しました。それが功を奏してインターンを受け入れてくれる花の農家と出会えたのです。

一人で海外に行き、自分で考えて困難を乗り越える経験ができました。帰国後にその体験を授業時間を使って話させてもらうなど、高校がアウトプットの場をたくさんくれたことで、自分に自信が付き、人生が変わりました!



DATA

- 【留学した年齢】** 16歳
- 【留学した国】** オランダ
- 【留学期間】** 高校1年の9月中旬から2週間
- 【留学内容】** 農家でインターンとして働く
- 【留学しようと思ったキッカケ】** 高校の入学説明会で「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」*を紹介されて

*「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーン。



中学時代からファームステイや農業体験を通じて、日本の農業をカッコよかしたいと思っていました。

ヨーロッパの街キレイ〜! テンション上がる!

折り鶴作戦でロッテルダムの観光地「キュービックハウス」を訪れたとき。



折り鶴が話しかけるきっかけに!

アムステルダムの美術館でトレチーのご夫婦にも折り鶴を(笑)。



渡航当初はヨーロッパの街並みに感動していたものの、インターン先が見つからない日々が。



折り鶴作戦のつながりで出会った、インターン先の花の農家のご家族。同い年の娘さん(馬の右隣)の学校にも体験入学させてもらい、オランダの教育に感銘を受け、教育にも興味。

